

# 薬草を求めて

篠原 功——早稲田大学理工学部・教授

与えられたテーマは6月、薬草、歳時記である。別にこだわることもないと思うが、結びつけないのが人情である。6月の歳時記は長雨で、天候不順につきお体を大切にというところか。それで体によさそうな薬草を結びつけておく。

◎

私が薬草に興味を持ちはじめたのは3年前、かっこ草で知られた鳴神山のいかり草からである。ここは前にも一度行ったことがあるが、群馬大学のお抱えのような山である。訪れたのは5月初旬で、珍しい白花のいかり草の群落が、黄色い山吹草と入り乱れて美しく咲いており、我家の飾りにと持ち帰った。眺めたあと捨てるのももったいないので、これから薬酒を作ってみる気になった。薬草の本を調べるとなかなか面白い。花が船のいかりに似ているのでこの名があるが、漢名淫羊かく(藿)で「羊これを食べると盛んに陰陽をなす」とのこと、不老長寿の酒でもある。正月の来訪客に披露し、健忘症によいなどと効能書を並べて試飲してもらった。

◎

いかり草の次は当然またたびである。これは一昨年9月下諏訪から奥へ入ったところで偶然見つけた。早速仕込んで昨年正月の目玉商品にした。旅人が山中で疲労困憊したとき、この実を食べると元気を回復し、またたびを続けたことからこの名が出たとか、紡錘型の実であったが、この外にごつごつした虫癭(えい)の2種類がある

ことを知った。簡単に実験できるが猫には全くよく効く。

◎

昨年6月鹿児島県出水から奥へ入ったところにあるひなびた湯川内温泉に一泊し山に入り、赤い実が鈴なりの山桑の大木に出会った。桑酒は実が紫黒色に熟したもののより赤色のがよいという。前年富士山麓で採ったのは未熟で失敗した。また9月佐渡で当帰(とうき)を採集した。これは葉も花も香も朝鮮人参そっくりである。

◎

この二つを本年正月の代表作として試飲してもらった。この外に月桂樹の葉酒、夜来香の花酒、カリンの果実酒などを作った。

本年は鷹が傷をなおしたといわれ、血を止め胃潰瘍にもきくというおとぎり草、抗ガン作用があるというふじばかま、あるいはしそ酒、菊酒などを作ってみたいとだ

んだんエスカレートしている。ところで薬草はどの程度効き目があるのだろうか。本を見れば強精、強壯、精神安定、健脳、無気力症を治す、食欲増進、疲労回復、不老長寿など飛びつきたい言葉が並んでいる。そんなに効くのかと質問される。私はただいま勉強中であり、効果をみるには常用しなければならぬが、私は弱くはなってもまだ普通の酒を愛好しており、体質により虚証の人に効くということもあり、人にすすめたり、おしつかけたりする程の体験を持ち合わせてないと答えている。

◎

しかし体験して非常に効くといわれる年配の同好者も居るし、私も特にアルコールを使用したチンキ剤はローマ時代のガレスス以来で評価してもよいと思っている。現在は単味の薬酒を作っているが、これらを混ぜ合わせてその相乗効果、相殺作用を体験しなければならないと思っているが、私にとってはまだ先のことである。(もと本会関東支部長)

カット=薬草図(またたび):薬草小事典(池田書店)より

